

- 問1 聖徳太子が定めた「冠位十二階」という制度は、それまでの豪族が家柄によって高い官職を独占していた政治の仕組みをどのように変えようとしたのですか。その意図として最も適切な説明を選びなさい。 (2021年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 有力な豪族に対して、先祖代々の功績に基づき永久に高い位を保証しようとした | 2. 地方の反乱を抑えるために、武力に優れた人物へ征夷大將軍の称号を与えようとした | 3. 家柄に関わらず、個人の才能や功績に応じて役人を登用し、天皇中心の政治体制を整えようとした | 4. 大陸から伝わった仏教を広めるために、僧侶に対して特別な色の冠を授けようとした |
|---|---|---|---|
- 問2 飛鳥時代から奈良時代にかけて確立された、地方を統治するための仕組みについて、中央から派遣された役人である「国司」の説明として最も適切なものはどれか。 (2021年 宮城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 明治時代に政府から任命され、旧藩の区域を廃して新たに置かれた県の長官となった。 | 2. もともとその土地を治めていた有力な豪族が任命され、実質的な徴税実務を世襲で担った。 | 3. 中央の都から派遣され、一定の任期を持って地方の行政や裁判、軍事を担った。 | 4. 鎌倉幕府によって各国の土地管理や治安維持のために派遣され、年貢の徴収を行った。 |
|--|--|---|--|
- 問3 古代の権力争いに関する記録において、蘇我氏が渡来人の持つ高度な技術や知識を背景に勢力を伸ばし、対立する物部氏を退けて政治の実権を握った背景について、正しい説明はどれか。 (2025年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 蘇我氏は武家社会の到来を予見し、幕府を開くために伝統的な公家勢力であった物部氏を制圧した | 2. 蘇我氏は独自の神事による統治を目指し、仏教を広めようとした渡来人の一族を追放した | 3. 蘇我氏は大陸の新しい宗教や文化を国家運営に活用しようとし、反対派を排除して中央集権化を進めた | 4. 蘇我氏は守護大名としての地位を確立するため、山名氏と結んで応仁の乱を引き起こした |
|---|---|---|---|
- 問4 6世紀における仏教の伝来経路とその背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 福井県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|-------------------------------------|
| 1. 朝鮮半島にある百済の王から、公式な外交の一環として仏像や経典が送られた。 | 2. インドの僧侶がシルクロードを通り、高句麗を経由せずに直接日本へ来航した。 | 3. 中国の隋から直接、遣隋使によって初めて日本へ仏教の教えが持ち帰られた。 | 4. 東南アジアから海路を経て、直接日本の九州地方へ仏教が伝えられた。 |
|---|---|--|-------------------------------------|
- 問5 701年に制定され、天皇を政治の頂点に置く中央集権的な統治の仕組みを確立した法令は何ですか。この法令では、行政を司る組織として太政官などが設けられました。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|-----------|----------|---------|
| 1. 武家諸法度 | 2. 十七条の憲法 | 3. 御成敗式目 | 4. 大宝律令 |
|----------|-----------|----------|---------|
- 問6 603年に制定された冠位十二階の制度が、それまでの日本の政治制度（氏姓制度）と比較して画期的であったとされる理由は、どのような点にありますか。 (2026年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 個人の能力や天皇への貢献度に応じて位が授けられ、地位の世襲を防ごうとした点 | 2. 身分に関係なくすべての国民に土地を割り当て、収穫した稲を税として徴収した点 | 3. 仏教を政治の道徳的規範として取り入れ、役人が守るべき役人心得を明文化した点 | 4. 地方の有力な豪族に対し、その一族の血筋に基づいて自動的に高い官職を保証した点 |
|--|--|--|---|
- 問7 奈良県にある、金堂や五重塔を備えた現存する世界最古の木造建築物として知られる法隆寺を建立し、仏教を基盤とした飛鳥文化を象徴する人物として最も適切な人物は誰ですか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 聖武天皇 | 2. 藤原道長 | 3. 聖徳太子 | 4. 天武天皇 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問8 古代の日本の歴史を振り返ると、天皇が積極的に仏教を保護し、各地に大規模な寺院を建立させたことがわかります。このように国家が特定の宗教を重んじた背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|---|---|---|
| 1. 儒教の教えに基づき、武士が政治の主導権を握るための正当性を得るため | 2. 大陸との公的な交流をすべて断絶し、国内の勢力だけで自立した国づくりを行うため | 3. キリスト教の伝来を阻止し、日本独自の八百万の神々への信仰を一本化するため | 4. 大陸の進んだ文化や技術を導入し、天皇を中心とした国家の仕組みを整えるため |
|--------------------------------------|---|---|---|
- 問9 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた大和政権（日本）は、大陸からの侵攻を恐れて九州などの防衛を強化しました。その際、九州北部に築かれた土塁と堀による防御施設、およびそこに配置された兵士の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2022年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-------------|----------|-----------|
| 1. 多賀城と防人 | 2. 水城と東山道の兵 | 3. 水城と防人 | 4. 多賀城と健児 |
|-----------|-------------|----------|-----------|
- 問10 7世紀から8世紀にかけて、日本が天皇を中心とした法に基づく国家体制（律令国家）を整備していった過程について、出来事を時系列に沿って正しく並べたものはどれですか。 (2019年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 十七条の憲法の制定 → 公地公民の方針の提示 → 近江大津宮への遷都 → 藤原京への遷都 | 2. 十七条の憲法の制定 → 近江大津宮への遷都 → 藤原京への遷都 → 公地公民の方針の提示 | 3. 藤原京への遷都 → 十七条の憲法の制定 → 公地公民の方針の提示 → 近江大津宮への遷都 | 4. 公地公民の方針の提示 → 十七条の憲法の制定 → 藤原京への遷都 → 近江大津宮への遷都 |
|---|---|---|---|
- 問11 7世紀後半、皇位継承をめぐる「壬申の乱」という大規模な内乱に勝利し、都を再び飛鳥地方に戻して、天皇を中心とした強力な中央集権国家の土台を築いた人物は誰か。 (2022年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 天智天皇 | 2. 桓武天皇 | 3. 聖徳太子 | 4. 天武天皇 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問12 飛鳥時代から律令国家の形成期において、大王が自らを中心とする国家体制の確立を目指した主な目的として、最も適切な記述を選びなさい。 (2026年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|----------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| 1. 中央集権体制を整えて豪族の対立を抑え、東アジアの国際情勢に対応するため | 2. 民衆に参政権を与えて自由な社会を作り、国民の権利を守るため | 3. 豪族に各地の領地を自由に支配させ、武力による統一を進めるため | 4. 地方豪族の権力を強化し、連合政権による分割統治を行うため |
|--|----------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
- 問13 7世紀後半、日本（倭）は百済を支援するために朝鮮半島へ出兵しましたが、白村江の戦いで唐と新羅の連合軍に大敗しました。その後、唐や新羅による日本への侵攻に備え、九州北部に位置する政治の拠点「大宰府」を守るために築かれた、大規模な土塁と堀による防御施設を何といいますか。 (2022年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 水城 | 2. 烽火 | 3. 防人 | 4. 多賀城 |
|-------|-------|-------|--------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 家柄に関わらず、個人の才能や功績に応じて役人を登用し、天皇中心の政治体制を整えようとした	それまでの日本は、氏姓制度によって特定の豪族が世襲的に高い地位を占めていた。聖徳太子は、天皇を中心とした中央集権的な国家を作るため、家柄ではなく個人の能力や実績を評価する「冠位十二階」を導入した。これにより、優れた人材を政府に集めることが可能になり、官僚組織の基礎が築かれた。冠の色で位階を区別する視覚的な序列化も行われた。
問2	答え 3 中央の都から派遣され、一定の任期を持って地方の行政や裁判、軍事を担った。	律令制における地方統治の仕組みでは、中央集権体制を強化するために、最上位の行政単位である「国」に都から国司が派遣された。国司は任期が終われば都に戻る仕組みとなっており、現地の豪族が任命され世襲された「郡司」とは、役割や身分が明確に区別されていた。なお、地頭（鎌倉時代）や守護大名（室町時代）、県令（明治時代）とは、設置された時代や目的が異なる。
問3	答え 3 蘇我氏は大陸の新しい宗教や文化を国家運営に活用しようとし、反対派を排除して中央集権化を進めた	当時の蘇我氏は、渡来人と深く結びつくことで先進的な技術や仏教という新しい思想を政治に取り入れ、それまでの氏族制度に基づいた政治を打破しようと試みました。これに対し、伝統的な儀式を司ることで地位を維持してきた物部氏は、自身の権益を守るために仏教受容に反対しました。蘇我氏の勝利は、後の聖徳太子による改革や、仏教を中心とした国家体制の整備に大きく影響を与えました。
問4	答え 1 朝鮮半島にある百済の王から、公式な外交の一環として仏像や経典が送られた。	古代日本の仏教伝来は、朝鮮半島の百済を経由して行われました。これは単なる宗教の普及ではなく、当時の東アジアの国際情勢の中で、百済が日本（倭）との同盟関係を維持・強化しようとする政治的な目的も含まれていました。東南アジア経由やインドからの直接伝来は、この時期の公式な伝来とは異なります。
問5	答え 4 大宝律令	唐の制度を参考にして、刑罰を定めた「律」と政治の決まりを定めた「令」が整備されました。これにより、天皇を中心とする律令国家の体制が整い、中央には太政官や神祇官が置かれ、地方は国・郡・里に分けられて中央から派遣された国司などが統治する仕組みが明確になりました。
問6	答え 1 個人の能力や天皇への貢献度に応じて位が授けられ、地位の世襲を防ごうとした点	それまでの政治体制では、特定の有力豪族が代々特定の官職を世襲する「氏姓制度」が一般的でした。冠位十二階は、個人の「才能」や「手柄」を基準に位を与える仕組みであり、家柄よりも個人の資質を優先することで、天皇による中央集権的な統治体制を強化する狙いがありました。
問7	答え 3 聖徳太子	飛鳥時代において仏教を深く崇敬し、厚く保護したことで知られています。建立された法隆寺は、当時の優れた建築技術を今に伝えるだけでなく、大陸から伝わった仏教の教えに基づき、国を治めようとしたこの人物の政治理念を反映した歴史的建造物です。
問8	答え 4 大陸の進んだ文化や技術を導入し、天皇を中心とした国家の仕組みを整えるため	当時の日本は、中国の大陸王朝（隋や唐）のような強力な中央集権国家を目指していました。寺院の建立には高度な土木・建築技術や金属加工技術が必要であり、教典の読解には高度な教育が不可欠でした。仏教を広めることは、これら大陸の先進的な知見を体系的に吸収することを意味しており、それを天皇が主導することで、天皇の権威を高め、国をまとめる大きな助けとなりました。
問9	答え 3 水城と防人	敗戦後、天智天皇は唐や新羅の侵攻に備えるため、対馬や九州北部に「防人（さきもり）」と呼ばれる兵士を配置しました。また、大宰府を守るために福岡平野の奥に「水城（みづき）」という巨大な土塁と堀を築き、さらに周囲の山々には「朝鮮式山城（ちょうせんしきやまじろ）」を建設して防衛網を固めました。多賀城は後世に東北地方の蝦夷に対抗するために築かれたものです。
問10	答え 1 十七条の憲法の制定 → 公地公民の方針の提示 → 近江大津宮への遷都 → 藤原京への遷都	聖徳太子が役人の心得を示した十七条の憲法（604年）を制定した後、中大兄皇子らによる大化の改新（646年）で公地公民の原則が示されました。その後、天智天皇としての近江大津宮への遷都（667年）を経て、694年に持統天皇によって中国の都にならった本格的な都城である藤原京へと移りました。藤原京が大津宮よりも後の時期である点に注意が必要です。
問11	答え 4 天武天皇	中大兄皇子（天智天皇）の死後、その息子である大友皇子と、天智天皇の弟である大海人皇子が皇位をめぐる争ったのが壬申の乱です。これに勝利して即位した大海人皇子が天武天皇です。天武天皇は、豪族の影響を抑えて天皇に権力を集中させる政治を推し進めました。
問12	答え 1 中央集権体制を整えて豪族の対立を抑え、東アジアの国際情勢に対応するため	唐や新羅などの緊迫した東アジアの国際情勢に直面した日本は、豪族同士の対立を防ぎ、天皇を中心とする強力な中央集権国家を築く必要がありました。そのため、豪族の私有地や私民を廃止し、国家が直接統治する体制へと改められました。
問13	答え 1 水城	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた倭国は、大陸からの報復による侵攻を強く警戒しました。九州の政治・外交の要所であった大宰府を防御するため、その北側に全長約1.2km、高さ約10mにも及ぶ巨大な土塁を築き、博多湾側には水を湛えた堀を設けました。これを水城と呼び、日本の古代国家における防衛体制の整備を象徴する遺構となっています。